

石岡市推進委員会 委員長賞

「あなたの素敵なところは」

石岡中学校 三年 坏 ひなた（あくつ ひなた）

「社会を明るくする運動」と開き、公民の授業で習った「社会集団」という言葉を思い出しました。人間は社会的存在であり、最も身近な家族など、様々な社会集団の中で生活しています。私の場合、家族より大きな社会集団で身近なものは学校です。そこで、犯罪や非行のない地域を目指す初めの段階として、学校生活の中の自分や周りの人のことについて考えました。

私は中学校に入学するとき、環境が変わることに少し不安を感じていました。しかし、入学してしばらく経つと、小学校の時とはまた違った面白さを見つけました。似ている人たちがグループを形成しているけれど、他のグループとも心地良い距離を保って関わっていることに気がつき、色々な人

がいる中学校が面白いと思うようになりました。私の中学校には、本当に色々な人がいて、一人一人に尊敬できるところがあります。一方で、友人に對し、やればできるのにどうして勉強を頑張らないのだろうと考えてしまうこともありました。しかし、母と車に乗っている時に

「このお店は、中学生の頃はやんちゃしていた同級生がやっているんだよ。」

と言われ、考えが変わりました。車の窓から見たその方は、好きなことを仕事にして生き生きと働かれています。私は、大切なのは「やりたい仕事で必要なものを持つこと」だと知りました。勉強は「できないといけないもの」だと思っていましたが、できた方が有利になることがあるものの一つ

でしかないのです。母の話を通して、皆が輝いて働けるようになれば良いなと思いました。

三年生になり、道徳の授業で自分の良さとクラスメイトの良さを考えました。私は、クラスメイト全員の良いところを言えます。しかし、そんなクラスメイトの中には、自分には良いところなんてないと言う人もいて驚きました。謙遜しているのかもしれないが、一人一人に素晴らしいところがあるのだから、それに自信を持って欲しいと感じました。授業が終わった後には、クラスメイトの一人が

「いつも自分の意見を持っているところが本当にすごいと思っているよ。」と言ってくれました。私は、「あなたのこういうところが素敵」と皆に對して

言える彼女を、小学生の時からすごいなと思っていました。しかし、特にきつかけもなかったので、本人にそれを伝えたことはありませんでした。これは伝えるチャンスだと思い、私は

「ありがとう。そうやって人の良いと思ったところを伝えるのって、なかなかできることじゃないよね。」

と返しました。彼女はそんなことはないと言いましたが、嬉しそうに顔をしました。私もこの時から、物事に対して意見や考えを持てることに自信ができました。そして、私もその友人のように良いところを本人に伝えられれば、その人が自分では気づいていない強みを見つけることに繋がるかもしれないと思うようになりました。

私は現在、興味のある仕事があります。今までに周りの人から言われた「文章を書くのがうまい」「行動力がある」「自分の意見を持っている」などが本真なら、きつと役に立つでしょう。自信のないものもたくさんありますが、それらは自分で磨いて私の武器にしたいと思います。手に入れた時には、言ってくれた人に、きつかけをくれて

ありがとうと伝えたいです。このように、人に言われたことに自信がなくても、磨いて自分のものにすることができるのではないのでしょうか。つまり、心の中で思っていることを声に出して言うことで、誰かの自信に繋げることができると私は考えます。

自分の良さや強みが分かれば、その人に向いていたり、やりがいを持ってできる仕事に出会いやすくなるでしょう。そのため、皆が輝いて働くためには、自信が持てる場所を見つけて、自信が大切なのではないかと思いますが、日本の若者は諸外国と比べて自己肯定感が低いそうです。それは「よし。今日から自己肯定感を高めよう。」と変えられるようなものではないでしょう。しかし、周りの人はその人の良いところを知っています。それを本人に伝えられれば、その人は自分の強みに気づけるのではないのでしょうか。私は、人の良いところを目を向けることは継続し、これからはすごいな、素敵だなど思った時に積極的に本人に伝えていこうと思います。そして、その小さな行動が連鎖して皆が自分自身を好きになれば、社会は少し

ずつ明るくなっていくでしょう。

